

# クウェートで 国際選挙監視団に参加する



写真・文 石黒大岳  
Hirotake Ishiguro

第3選挙区内に設置された立候補者の看板。作成・設置は内務省が担当

二〇〇六年以来、クウェートの国民議会選挙の選挙キャンペーンを観察してきた。過去五回の選挙を観察してきたが、二〇一三年七月二七日の第一回選挙では、国際選挙監視団の一員として投票所内へ立ち入る機会を得た。選挙監視は地元のNGOであるKuwait Transparency Society (KTS) によって二〇〇六年選挙から実施され、国際選挙監視団による監視はKTSがオーガナイザーとなり二〇一二年一二月の選挙から実施されている。二〇一三年七月選挙では、Network of Democrats in the Arab World (NDAW) 加盟組織メンバーアラブ諸国の学識経験者を中心に、一八カ国から参加した三人から成る国際選挙監視団が構成された。

クウェートでは独立の二年後、一九六三年以来、計一六回の国民議会選挙が行われてきた（一九七六〜八一年および一九八六〜九二年は議会解散後憲法が停止され、首長による専制が行われていた。二〇一二年二月選挙は憲法裁判所判断で無効となり、公式にはカウントされない）。二〇〇六年二月に現サバーフ首長が即位して以降、国民議会は四年の任期満了を迎えることなく解散と選挙が繰り返され、八年間に六回も選挙が実施された。クウェートはアラブ諸国のなかでは民主化が進んでおり、二〇一一年のアラブ諸国における政治変動の影響を直接には受けなかった。しかしながら野党勢力と政府の対立は年々深刻化しており、司法の介入も加わって、二〇一二年二月選挙と一二月選挙は憲法裁判所の違憲判断により無効となり、一年足らずで議会解散と選挙の実施が繰り返された。

憲法は議会解散後六〇日以内の選挙の実施を規定している。閣議を経て首長令により投票日が決定さ



投票所への発送を待つ投票箱。投票日当日の朝に各投票所へ搬入される



投票箱に収められた、投票場内での事務作業に使用する物品について説明する内務省選挙事務局の準備担当責任者



新聞紙面を埋める立候補者の広告。掲載料は半頁カラーで2000KD(約7000米ドル)程度



投票用紙の枚数を確認して箱詰めする作業。こうした事務作業はインド系の職員の担当



立候補者の選挙事務所を兼ねたテント内の様子

ると、投票日の三〇日前に選挙が告示され、立候補者の受付開始とともに選挙戦がスタートする。投票日の二週間前あたりから、選挙戦は本格化する。新聞は立候補者の広告と演説会の告知で占められ、国営テレビと民間衛星放送では政見放送のほか、立候補者の討論やインタビュー番組が連夜放映される。ネットや携帯のSMS、ソーシャルメディアを駆使したアピールも活発で、メディア活用自由度は高く、この面ではわが国の随分先を行っている印象である。主要道路沿いには巨大な立候補者の看板が立ち並び、市中の空き地には立候補者の選挙事務所を兼ねた大型テントが建つ。サーチライトが夜空を彩り、夜八時前後になると立候補者の演説会が始まる。舞台袖では饗応の準備が進められる。部族の選挙キャンペーンでは景気づけにラクダを屠って振る舞うこともあり、テントの横に若いラクダが繋がれているのを目撃することもあった(写真を撮り損ねたのが悔やまれる)。テント周りに出店が立つ所もあり、訪れる家族連れの姿を見ればまさにお祭りだ。

選挙資金に法的制限は無く、一〇〇万クウエート・ディーナール(約三五〇万米ドル)を超える例もあり、現地エコノミストによれば、選挙キャンペーンにはGDPを押し上げる経済効果が確認できるといふ。反面、票の買収問題も深刻で、女性にブランド品が配られた、票を売ったお金で海外旅行、といった話を耳にする。また、野党勢力は、政府への腐敗汚職批判と絡めて、政府や有力王族が議会運営を容易にするために特定の候補者へ(買収のための)資金提供を行っているという糾弾している。選挙に多額の費用が必要であることは、必ずしも選挙



アルファベット順での投票場所の割り振りを示した看板。女性の投票会場ではクウェートでは珍しい女性警官が2-3人、多数の男性警官に交じって警備にあたる



廊下で順番を待つ来場者たち。暑さと断食期間中であることを考慮して椅子が用意された



投票会場の小学校に入ると、まず、壁に掲示された有権者名簿から自分の名前と、アルファベット順で割り振られた投票場（体育館および教室）を確認する。投票場は各会場に3～5カ所設置される

が金持ちに有利ということを意味しない。サンドウークと呼ばれる基金を募って候補者を支援する仕組みもあり、資金力に乏しい立候補者は支援を獲得すべく知恵と工夫を凝らしている。

投票は朝八時から夜八時まで行われ、即日開票される。選挙事務の準備作業・運営は内務省選挙事務局が担当し、投票場内の監督責任者は裁判官が務める。警察官は会場警備と場内誘導を担当する。投票会場は小学校の体育館と教室が使用され、男女別で使用する学校が分かれている。国際選挙監視団は六班に分かれ、本部待機組を除く五つの班がそれぞれ担当する選挙区（全五区）を巡回した。筆者らが担当した第四選挙区はクウェートの西側、砂漠が広がる部族地域であるが、気温五〇度を超える暑さとラマダーン中にもかかわらず、投票者の出足はまずまずであった。ある投票場では、立候補者の代理人から、準備の遅れ（警察、選挙事務員、裁判官いずれかの到着の遅れ）で朝八時にもかかわらず会場に入れなかったとの訴えがあったが、それ以外では不正やトラブルは無かったようである。礼拝時間中もイフタルの時間も中断することなく投票は続けられた。

巡回中に驚いたのは、投票場で投票者を有権者登録台帳と照合する際に、投票者の名前と登録番号が読み上げられ、それを立候補者の代理人たちが記録していたことである。これは他のアラブ諸国では見られないクウェート独特の運用で、国際監視団のなかには驚くとともに、誰に投票したかは分からなくとも誰が投票したか



投票箱の正面に裁判官、左隣に内務省の職員、左隣に立会人（立候補者の代理人の代表）が座る。投票者は場内に入ると、内務省の職員に国籍証を渡し、有権者登録台帳との照合を受ける。その際、名前および登録番号を読み上げられ、それをもとに立候補者の代理人たちも来場者の確認を行う。照合が終わると、裁判官から投票用紙を渡される。裁判官は国籍証に来場のスタンプを押し、投票後に返却する



投票用紙に記入する様子。手前は有権者登録台帳に記された有権者の来場および投票を確認する立候補者の代理人たち。ちなみに女性の投票場内では、裁判官以外は内務省の事務職員を含めすべて女性となる

いしぐろ ひろたけ / アジア経済研究所 中東研究グループ

専門は比較政治学。中東湾岸諸国における政治参加と議会制度の展開に関心がある。

2005～06年にクウェート大学へ留学。

が分かる点で、投票の秘密に抵触しないのか疑義を呈するメンバーもいた。いつからこの方式なのか確認はできなかったが、投票終了後の当局による票の操作を防ぎ、選挙の透明性を担保すべく、クウェートの歴史的経緯のなかで用いられるようになったのであろう。

選挙監視団メンバーとの別れの挨拶は、皮肉交じりに「四年後にまた会おう」というものだった。八月に招集された新議会は、早くも首相に対する問責を予告する波乱含みの展開である。再び一年も経たないうちに議会解散と選挙実施の可能性が囁かれるが、果たしてどうなるか。クウェート議会政治の安定化を祈るばかりである。



投票所（小学校）の校門前にある駐車場に立てられたテントに陣取る立候補者の運動員たち。投票場内の代理人の休憩場所と交代要員の待機場所、ならびに投票所の入口で最後のお願いをする運動員の拠点も兼ねる。投票を済ませた人に水や紅茶のサービスを行うことも。2006年選挙では屋台が立つところもあった。立候補者本人が投票動向の確認も兼ねて激励に来ては運動員と記念撮影する様子も見られる



投票所入り口付近に掲示された投票用紙の見本。アルファベット順に立候補者の名前が記載されており、投票したい立候補者の名前の前（右側）にある□にチェックを入れる。第4選挙区では88人が立候補し10議席を争った



現地紙で紹介された国際選挙監視団（第4選挙区担当）メンバー。出身国は右からイエメン、レバノン、ヨルダン、チュニジア、モロッコ、日本（筆者）、クウェート（KTS）。（画像はal-Qabas紙より提供）



開票の様子。開票は投票場（教室）ごとに人の出入りを完全に遮断して行われる。立候補者の代理人が開票作業をチェックし、各自が記録した来場者数と投票数の一致を確認する。開票結果は各選挙区の集計センターに報告され、当選者が発表される。最終的な結果は最高国民選挙委員会より発表される。なお、開票が終わった投票用紙は専用の封筒に入れられ、端で封筒された後、国民議会へ送られる